

令和4年度

新潟県病虫害発生予察速報第3号

(斑点米カメムシ類の発生状況)

1 斑点米カメムシ類主要加害種の発生状況(6月下旬)

(1) 水田畦畔におけるカメムシの種類別発生量(表1、2)

県全体のアカスジカスミカメの確認地点率は平年比低い、すくい取り虫数も平年比少ない。地域間で発生量の差が大きく、魚沼・上越地域では確認地点率が平年並となっている。アカヒゲホソミドリカスミカメの確認地点率は平年比やや低く、すくい取り虫数も平年比やや少ない。上越地域では確認地点率は平年並、すくい取り虫数平年比多となっている。オオトゲシラホシカメムシの確認地点率は平年比やや低く、すくい取り虫数も平年比やや少ない。

(2) 水田内すくい取りではクモヘリカメムシは6月22日柏崎市で9頭(成虫)、28日新潟市西蒲区で1頭(成虫)が確認された。

※ クモヘリカメムシは佐渡地域や、上越・中越地域の海岸寄りを中心に確認されている大型カメムシ。今回確認された柏崎市の水田内では出穂したスズメノテッポウが目立ち、西蒲区の水田ではスズメノテッポウなし。

(3) 6月30日現在、北陸地方では向こう1か月間の気温は平年比高く推移すると見られる。

表1 斑点米カメムシ類の畦畔すくい取り確認地点率(単位：%)

種類	年次	下越	新潟	中越	魚沼	上越	佐渡	県全体
アカスジカスミカメ	本年	7.1	0.0	7.1	35.7	41.7	0.0	16.0
	前年(令3)	28.6	30.8	38.5	23.1	58.3	33.3	35.1
	平年	30.0	29.1	45.4	42.6	31.7	36.7	39.5
	平年比	低	低	低	並	並	低	低
アカヒゲホソミドリカスミカメ	本年	28.6	25.0	42.9	7.1	33.3	0.0	24.0
	前年(令3)	35.7	23.1	46.2	0.0	33.3	0.0	24.3
	平年	37.1	44.8	43.6	31.7	29.2	6.7	34.4
	平年比	並	やや低	並	やや低	並	やや低	やや低
オオトゲシラホシカメムシ	本年	0.0	8.3	7.1	7.1	25.0	0.0	8.0
	前年(令3)	0.0	7.7	7.7	0.0	25.0	0.0	6.8
	平年	5.7	10.3	18.7	20.1	22.5	2.2	13.5
	平年比	やや低	並	やや低	やや低	並	並	やや低

表2 斑点米カメムシ類の畦畔すくい取り虫数(単位：頭/地点、20回振り)

種類	年次	下越	新潟	中越	魚沼	上越	佐渡	県全体
アカスジカスミカメ	本年	0.1	0.0	0.1	1.0	3.0	0.0	0.5
	前年(令3)	1.6	2.3	3.2	0.8	6.5	1.0	2.6
	平年	4.3	1.9	11.9	11.0	5.8	2.9	6.2
	平年比	やや少	やや少	やや少	やや少	並	やや少	少
アカヒゲホソミドリカスミカメ	本年	0.7	0.5	2.4	0.1	4.8	0.0	1.4
	前年(令3)	2.6	0.9	1.6	0.0	5.1	0.0	1.8
	平年	2.8	5.7	7.3	2.9	1.7	0.2	4.3
	平年比	やや少	やや少	やや少	やや少	多	並	やや少
オオトゲシラホシカメムシ	本年	0.0	0.1	0.1	0.1	0.3	0.0	0.1
	前年(令3)	0.0	0.1	0.1	0.0	0.5	0.0	0.1
	平年	0.1	0.3	0.8	0.5	0.5	0.1	0.4
	平年比	やや少	やや少	並	やや少	やや少	並	やや少

注1) 表1、2は畦畔すくい取り調査結果(病虫害防除所巡回調査、75地点、6月下旬)

注2) 表2の網掛けは、確認虫数がやや多~多となったもの。

2 当面の対応と注意事項

クモヘリカメムシの被害が予想される場合は、薬剤防除はホソハリカメムシに準じた2回の防除が基本であるが、発生が少ない場合は、出穂期7日後頃の1回散布でよい。

斑点米カメムシ類主要加害種のうち、カスミカメムシ2種（アカヒゲホソミドリカスミカメ、アカスジカスミカメ）の発生量は斑点米の発生に大きく影響するため、以下の対策を徹底しこれらのカメムシの増殖を抑制する。

(1) 水田周辺の雑草管理

ア カスミカメムシ類は、メヒシバ、ナギナタガヤ、スズメノテッポウ等の出穂したイネ科植物に好んで寄生し、増殖する。畦畔・農道等の除草を徹底し、斑点米カメムシ類の増殖を抑え、水稻の出穂期以降の水田侵入量を減らす。

イ イネ科雑草が出穂しない間隔で草刈りを繰り返すことで、畦畔雑草地での斑点米カメムシ類の密度を低く抑えることができる（図1参照）。また、斑点米カメムシ類を対象とした薬剤防除実施前に草刈りを行うことで防除効果を高めることができる。

ウ 水稻の出穂期後もメヒシバ等のイネ科雑草が出穂・結実しないよう除草を継続する。

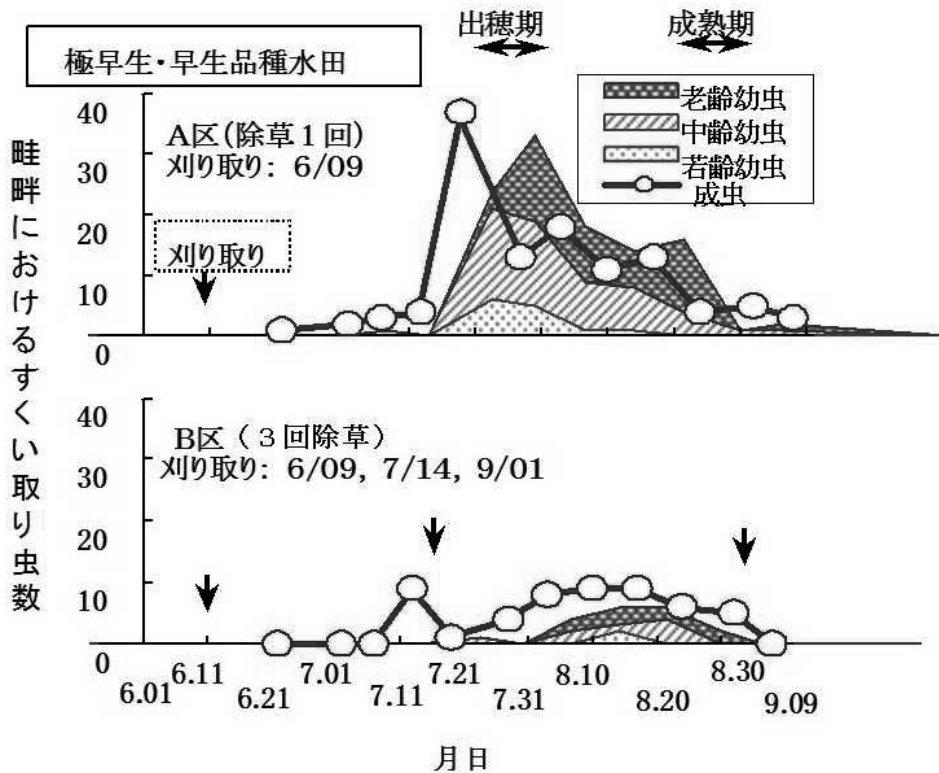


図1 水田畦畔の除草回数とアカヒゲホソミドリカスミカメのすくい取り虫数の関係
上：除草回数1回 下：除草回数3回 （平成13年 新潟県作物研究センター）

(2) 水田内の雑草管理

水田内雑草（ノビエ、イヌホタルイ等）の繁茂・結実は、斑点米カメムシ類の水田侵入・増殖を助長する。特に水稻の出穂期頃の水田内に開花したイヌホタルイが多いとアカスジカスミカメが侵入しやすく、被害が大きくなるため早めに除去する。

(3) 注意事項

- ア 図2のとおり、カスミカメムシ2種の畦畔すくい取り虫数と斑点米格落ち率とは密接に関係している。平成25年にカスミカメムシ2種が急増してからは高止まり状態で推移しており、平年値自体が高くなっていることから、畦畔すくい取り虫数が平年並であっても注意が必要である。
- イ 水稻の出穂期予想の情報に留意し、品種ごとに適期に薬剤防除できるよう防除計画を立てる。
- ウ カメムシ類の発生動向については今後発表される最新の発生予察情報に留意する。

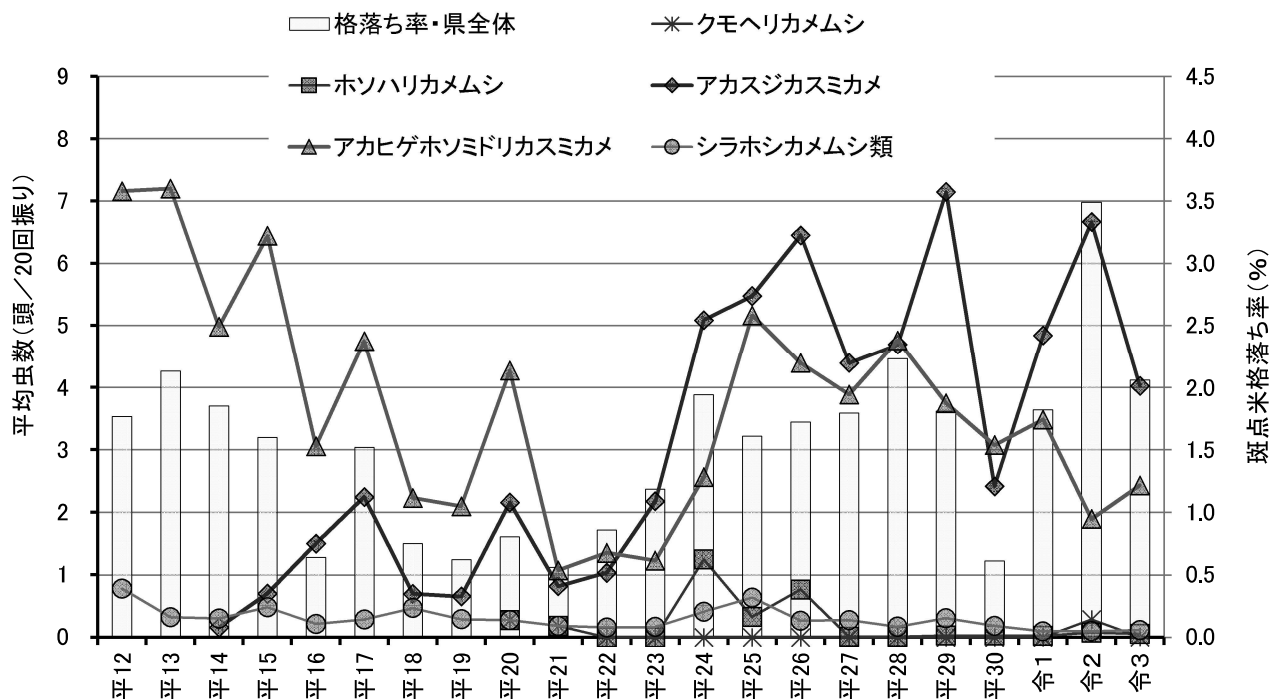


図2 斑点米カメムシ類主要加害種の水田畦畔における発生量と斑点米格落ち率の年次推移
 ※平均虫数は6月後半～8月後半の平均